



《今回のテーマ》は

儲かる経営管理システム

お客様とお会いする時の参考情報としてご利用ください

平成24年は干支では「壬辰」（みずのえたつ）、芽生えた命や新しい事柄を慎重に育てていき、来るべき日のために備えておくという年のようです。東日本大震災からの復興需要等で景気は回復が見込まれていますが、円相場の動向、欧州財政危機等の懸念材料もあり、不透明さが拭えません。こうした時期こそ企業体質を見直し、企業の全ての部門が業績アップに貢献するシステムを検討する好機です。とくに間接部門の役割が重要です。

企業が一定の規模を超えると基本的な経営管理システムの整備が必要となります。急成長の企業があつという間に凋落する原因の多くが、経営管理システムの不備、例えば、技術は優れているが財務音痴、売るのは上手いが在庫管理や回収管理の不備等となっています。経営管理部門は間接部門であり、カネは生みませんが、経営資源、すなわち、カネ、ヒト、モノの管理システムを整備・運用する部門がまさに間接部門といえます。

(1) カネに関する管理システムでは、財務・経理の基本的仕組みを整備し、経営のための金の流れが目に見えてわかるようにしておくことが不可欠です。その他、月次損益・部門別損益の把握、売掛金の内容把握、正確な在庫把握等々も含まれます。

(2) ヒトの管理システムでは、社員が喜んで働きしっかり稼いでくれる仕組みづくりが必要です。ポイントは、①企業目的と社員の目的をできるだけ近づける②将来の人材の獲得と育成③人件費コストと処遇のバランスを図る④トータル的な人事管理システムの整備⑤時代の変化への柔軟な対応⑥雇用形態の多様化への対応等があげられます。とくに③の処遇制度は、稼ぎ高（能力と実績）に応じて処遇する時代になっており、社員のやる気を引き出すシステムを考えなければなりません。

(3) モノの管理システムでは、物流部門の役割が高まっています。総合的な物流コスト戦略が企業経営を左右する時代となってきています。各企業が実施している最大の物流コスト戦略は在庫量の削減です。次が物流拠点の集約で、物流ネットワークのムダを省き、物流コストを下げようとするものです。最終的な姿は、サプライチェーンマネジメントによる物流改善と言えます。

企業のなかに「儲けない部門」など存在してはならないということです。

参考情報

○儲かる経営管理システムをつくれ	(0104-0145)
○自分の食いぶちは自分で稼がせろ	(0104-0153)
○計数感覚を持たせよ	(0104-0157)
○人件費に見合う成果を上げているか	(0104-0162)
○やる気を引き出す処遇を考える	(0104-0164)
○経営における物流コスト戦略の重要性	(0106-1313)
○サプライチェーンマネジメントによる物流改善	(2006-1179)

()内は情報番号です

皆様が、お客様から相談をうけた時、「JRS経営情報」をちょっとした参考情報として提供されればお客様から喜ばれることは必定です。

なお、お客様にコンテンツをご提供する場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。また、お探しの情報が不明な場合はご照会ください(0120-89-0240)。